

琉球大学学術リポジトリ

アフガニスタン・ヘラート市の変容に関する研究：
ドーム状ヴォールト屋根伝統住居を指標として

メタデータ	言語: English 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Samimi, Sayed Abdul Basir, サミミ, サイド アブドゥル バシール メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41488

(様式第5-2号) 課程博士

平成 30 年 2 月 6 日

琉球大学大学院
理工学研究科長 殿

論文審査委員

主査 氏 名 安藤 徹哉

副査 氏 名 堤 純一郎

副査 氏 名 清水 肇



学位 (博士) 論文審査及び最終試験の終了報告書

学位 (博士) の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 総合知能工学 氏名 Sayed Abdul Basir Samimi 学籍番号 XXXXXXXXXX	
指導教員名	安藤 徹哉	
成績評価	学位論文 合格	最終試験 合格
論文題目	A Study of the Transformation of Herat City, Afghanistan -Traditional Houses with Domical Vault Roofs as the Indicator-	
審査要旨 (2000字以内) Samimi氏は、A Study of the Transformation of Herat City, Afghanistan -Traditional Houses with Domical Vault Roofs as the Indicator-と題して博士論文を完成させた。その一部は査読付き学術論文として、日本建築学会計画系論文集 (vol. 82 No. 735 2017) と APSA (2017・10) に発表している。 本論文は4章より構成される。 第1章 Backgroundでは、既存の研究を整理した上で、本論文の構成を示している。 第2章 Distribution of Domical Vault Roof Houses in Herat Cityでは、衛星写真より独自に作成したドーム状ヴォールト屋根伝統住居の分布図を分析し、7箇所 of 集中箇所を抽		

審査要旨

出し、歴史的経緯などからそれを3種類に分類している。

第3章 Transformation of the Old City of Heratでは、現地調査によりヘラート旧市街地の変容実態を明らかにすると共に、変容に対するAKTCによる市街地改良事業の影響を分析している。

第4章 Conclusion では、モニュメントを中心とした現行のゾーニング計画の問題点を指摘し、伝統住居を含めた独自の改善案を提示すると共に、ヘラート旧市街地の保全のための詳細計画についての提案をまとめている。

本研究成果は工学的に有用であり、提出された学位論文は博士の学位論文に相当するものと判断し学位論文の審査を合格とする。また、2018年2月6日に執り行われた論文発表会における発表ならびに質疑応答において、申請者は専門分野および関連分野の十分な知識ならびに十分な研究能力を有していることが確認できたので最終試験を合格とする。